

以上の如く宮崎地方の常緑広葉樹林においてはコジイを主とする小径木用材の生産が可能であり、且つ好

適の条件にあるものとする。

4. 宮崎県海岸林の造成に関する研究 (第3報)

宮大農学部 宍戸元彦・林武彦

第1報、2報で海岸林の地況、林況及び半年間の試験経過を報告したので、此度は1年経過後の結果を取纏めて報告する。

(1) 土壌温度調査結果

(1) 地表温度が20°C以下になるのは11月中旬以降2月中旬迄で、最低は12月下旬より1月末に現われ3号地が最も低く10°Cを示す。最高は8月で、5号地が最も高く68°Cを示す。

(2) 地中温度が10°C以下になるのは11月中旬以降2月下旬迄であり、最低は12月下旬より1月中に現われ、3号地、2号地が低く5°C~7°Cを示す。地中10cm、20cmの温度の差は1°C内外で11月より2月迄は地中20cmの方が僅かに温度が高くなり、3月より10月迄は地中20cmの方が温度が低くなり、逆の傾向を示す。

(2) 発芽試験の結果

(1) 第一播種試験 (昭和30年4月19日播種)

(イ) マテバシイ

発芽に6ヶ月を要し、11月1日3号客土、不客土区に各3本、4号客土区に2本発芽したが、3号客土区の他は7~8月中に枯死し、又発根せるも発芽しない儘枯死したものが多かつた。マテバシイは附近天然更

新地を見るに、クロマツ林及び常緑広葉樹林下に生育し幼時は特に耐蔭性強く、上部に保護樹を必要とし、海岸砂地で裸地の第一次更新樹種でなく、鬱蔽したクロマツ林分下又は他の常緑樹の侵入した後に使用すべき樹種と思われる。

(ロ) ハクサンボク

海岸に普通に見られるが、発芽に最も長い期間を要し(10ヶ月)しかも厳寒の2月8日に揃って発芽したことは特に珍らしい現象である。広葉樹の開芽の時期を調査しても一番早く、1月にすでに動き始め、他の樹種より2ヶ月位早く、特性を持った樹種と思われるが、7~8月の間に殆んど枯死し、3号客土区のもののみ残存している。

(ハ) トベラ

5号地を除き、6月に各区共発芽し、11月に4号、1号、2号、3号試験地に僅かに再度発芽せるも、不客土区は各号試験地とも7~8月中に枯死し、又2月中に客土区の中に1~2本枯死木を発生した。トベラは二度の発芽期を持つことが特性と思われる。

他の樹種については2報で報告しているので省略する。全樹種を通じ夏に残存せるものは冬の厳寒で枯死するものは殆んど認められない。

(3) クロマツ稚樹消長試験

クロマツ稚樹消長試験 (昭和30年4月より31年3月迄)

| 試験地 | 種別 | 発芽本数 | 枯死本数 | | 残存本数 | | 枯死率(%) | | |
|------------------|----|------|-------|--------|------|-----|--------|--------|-----|
| | | | 6月—9月 | 12月—3月 | 本数 | (%) | 6月—9月 | 12月—3月 | 全体 |
| 1号試験地 (老令樹冠下) | | 118 | 35 | 9 | 74 | 62 | 30 | 8 | 38 |
| 2号試験地 (幼令林) | | 88 | 40 | 35 | 13 | 15 | 45 | 40 | 85 |
| 3号試験地 (裸地) | | 124 | 116 | 8 | 0 | 0 | 94 | 6 | 100 |

以上の結果より、クロマツ稚樹の発芽後2年間の消長は各号試験地とも、夏期の炎暑中の枯死が冬期厳寒中に枯死せるものより多く、裸地においては夏期に殆んど枯死する。

残存生育をなすものは老令樹冠下の2号試験地が最

も多く2号地が之につき、3号地は皆無となつている。

台風、常風による土砂の移動(埋没、洗掘)を汀線より林地に亘り標杭により試験中であるが、本年の15号台風(最大風速38m/s)では僅かに1cmの移動が見られたに過ぎない。